

私たちの活動の軌跡  
—篠島での1年間—

活動先：篠島

私たち「篠島勝手に盛り上げ隊」は1年間で2つの大きな活動を行った。1つは篠島サンサンビーチの清掃活動を行う「青年海岸協力隊（2009年7月4日）」の活動と、もう1つは島民のお宅を訪問してアンケート調査を行う「篠島調査団（2009年11月15・22日）」の活動である。

「青年海岸協力隊」活動を行った理由は、篠島では7月1日に海開きが行われるため、たくさんの観光客が来ると予想したので篠島の魅力を存分に伝えるためにも海岸を綺麗にしたいと思ったからだ。この当時私たちの班は2人しかいなかったため、他にも協力してくれる方を集めようということになった。海岸清掃の活動を他の岡ゼミの方にアピールしていくなかで、活動の名前を「青年海岸協力隊」として隊員を募集するという形で呼びかけを行っていった。岡ゼミの1年生から2人、3年生から3人協力を得ることができ、当日は合計7人で活動を行うことになった。また、当日のごみの処理の方法やゴミ袋については、南知多町役場の職員の方のアドバイスのもと篠島観光協会聞いてみようということになった。そして連絡を行った結果、篠島観光協会の方が当日のゴミ袋を用意してくれ、拾ったゴミを回収してくれるという話になった。海岸清掃をすることで、篠島に遊びに来た観光客が篠島を好きになって欲しいと強く思った。当日は14時に河和駅へ集合して、そこからバスで河和港観光総合センターまで行き、その後はフェリーで篠島まで向かった。前日に降水確率が90%とあったので心配をしていたが、当日雨は降らず曇ひとつない晴天であり、何もしなくても汗が出るような暑さだった。篠島に着いてからは、まず篠島観光協会まで行きゴミ袋をもらい、ゴミを捨てる場所を教えてもらった。ビーチに着いてからは16時まで清掃活動を行った。清掃活動を行うなかで、タバコの吸い殻やガラスの破片が多いことに気付いた。海がとても透き通っていて綺麗だから、タバコなどによって海が汚れてしまうのは絶対に嫌だと思った。瓶を故意的に地面に叩きつけて割れた形跡があったので、それは砂浜で遊ぶ人達にとって、とても危険だと思った。タバコの吸い殻を捨てないこと、海岸はみんなが安全に遊べる場所にしなければいけないということを、島民の方々に呼び掛ける必要があると思った。

「篠島調査団」の活動では、島民の方々の生活のニーズを把握するために、15日にアンケートを家庭に配布して22日に回収を行った。結果として、目標の300世帯には届かなかったが、110世帯324人の島民の方にアンケートを配布することができた。22日のアンケート回収では、15日に留守のためポストに投函した家庭でも多くのアンケートが回収できた。結果的に59世帯151枚のアンケートを回収でき、回収率は46.6%だった。アンケートなかで「島の発展のためには何が必要ですか？」という質問をしたところ、島民の約8割の人が船賃の高さを指摘した。私たちが感じているようにやはり島民

の方々も船賃の高さに不満を感じているのだということが分かった。アンケート結果を総合的に見ると、「こどもが夜間に熱をだしたときに困る」等の医療に関する意見が多かった。島民の方から、篠島は大きな病院がなく予防注射を打つにも島外へ出なければいけないという話も伺って、私たちは篠島に住み込みの医師を置くべきであると考えた。また、「登校時間や出勤時間と船の出発する時間を合わせてほしい」という意見も多くあり、船賃の問題も含め名鉄観光に働きかけていこうと考えた。

篠島で活動を行った1年間を振り返ってみると、私たちは今までの活動を通して計画力や創造力・実行力が身に付いたと思う。篠島を知り、島民の方々のニーズを把握し、社会変革を起こすという大きな計画を基に活動をすすめていくことができたことで、計画力が見に付いた。今はまだ社会変革を起こすという過程にはたどり着けていないから、これからの活動の中で1つずつ確実に計画通りにすすめていきたいと思う。創造力という側面では、「篠島勝手に盛り上げ隊」などのユニークな名前を考えたり、1人でも多くの人に私たちの存在を知ってもらうために手作りの名刺を考えたりなど、私たちの班だからこそ造り出すことができるものをいろいろ考えることができた。また、2009年12月17日のデジタルコンテンツコンテストに向けて、限られた時間のなかで1年間の学習の成果を私たちにパワーポイントにまとめることができた。結果としては入賞することができなかったが、自分たちの持っている技術を最大限に発揮して私たちにものを造り出したので結果的に創造力を身に付けることができ良い学びの経験となった。実行力については、実際に篠島に行き活動を行うなかで自信をつけることができ、私たちのほんの小さな力でも実行することで篠島に貢献できるのだということ学んだ。また、実行力を身に付けたことで島民の方々と積極的に関わっていくコミュニケーション能力や、物事を振りかかって考える分析力も身に付いてきているのではないかと考えた。そうやってどんどんと振り返ってみると、私は社会変革のための活動のなかで、自然と自己変革されていることに気付いた。篠島の生活がより良くなるためと思って活動をしていたことが、実は自分の知識や技術をより良いものへと変えていっているのだと学んだ。そこで私たちは、島民の方1人1人の自己変革が篠島の社会変革へとつながっていくのではないかと考えた。また私たちは、篠島を変えるためには、島民1人1人と向き合っていくことが大切なのだ気付いた。これからの活動の目標として、島民と行政が話し合える場所づくり、住民参加型のフィールドワークを行っていこうと考えている。私たちだけが活動を行っていくのではなく、島民自身が自分たちの生活を変えていこうという意欲を持つことが大事なのだと思います。私たちは将来的に、島民と行政をつなぐ懸け橋のような存在になりたい。そのためには多くの島民の方に「篠島勝手に盛り上げ隊」を知ってもらい、信頼を得なければいけない。だからこそ今後の活動では、島民の方々が参加できるサービスラーニング活動を考えていきたい。島民の方々が「面白そうだな！」と思えるような企画を考えて1人でも多くの方と交流をする機会を作りたいと思う。また今の私たちの活動を紹介する方法としてホームページがあるが、これからも更新をしていき篠島の存在と私たちの活動を世界中の人にアピールしていきたいと思う。サービスラーニングセンターの方がホームページの更新の手続きをしてくれるので、その方々ともしっかりと連携をしていきたいと思った。結果的に、島民1人1人が自己改革を行いそれが大きな形となって社会変革へつながることが私たちの大きな目標であると考えた。